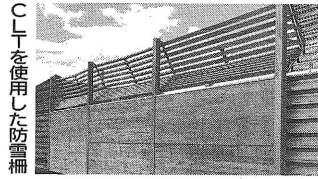


業 興 研 理

CLT防雪柵を出展

8、9日に ゆきみらい 若松で3度目開催

CLTを使用した防雪柵が登場した。道路資材メーカーの理研興業（本社：小樽市）が研究・開発を進めていたもので、今月8、9日の2日間、会場津若松市で開かれる「ゆきみらい2023」に出展する。土木施



CLTを使用した防雪柵

着した集成材パネルで、1990年代にオーストラリアで開発された。断熱性が少ないとされ、CLT普及へ可能性を拓けるものは「環境調和型の新たな防雪対策の提案、CLTを活用した防雪柵のため、欧州や北米などで

主に壁や床などの建築部材として幅広く利用されてきた。国内でも200500年カーボニユートラル宣言を受け、炭素を貯蔵する「炭素固定効果」の高い木材の利用技術として注目され、低層住宅のほか中高層建築物など建築分野で急速に伸びている。

一方、土木分野では屋外使用が多いため耐久性が課題とされ、地盤補強用の杭、工事現場の敷板、木橋、ガードレールなど使用は一部に限られている。搬入コストも課題とされているが、国産材を活用したCLT製作も全も行われる。

全国各地で開始され、調達も容易になったことから、土木分野での利活用が進めば、脱炭素に加えて地域林業の活性化につながるものと期待されている。

若松市で開催されるのは3回目。国土交通省、会津若松市、雪センターなどの主催、克雷・利雪技術などを発表、意見交換して、雪に強いまっくろと雪国の情報を発信した地域活性化などが目的。シンポジウムや新技術見本市、研究発表、除雪機械の展示・実演なども行われる。